

吉田病院広報誌

すこやか

講演会特集

『第16回 医学講演会報告』

[NEWS] 在宅福祉センターは移転しました。

vol64 2018 AUTUMN

特集

第16回 医学講演会報告

2018年8月18日(土)日本肺癌学会 理事長の光富 徹哉先生と兵庫県立がんセンター 呼吸器内科部長の里内 美弥子先生による、肺癌講演会「飛躍する癌治療、その先へ ～免疫療法は未来をかえたのか～」を開催いたしました。

講演会は2部構成で、特別講演として光富先生による「肺癌分子標的治療の進歩」、一般講演として里内先生による「肺癌の免疫治療ー進行がんでも治るの？」をご講演いただきました。会場には、約600名に上る方々にお越しいただきました。関係者の皆様、またお越しいただいた皆様に心より御礼申し上げます。



16th

2018.8.18 sat
Since 1998

医学講演会を終えて

本年度の医学講演会のテーマは、肺がんの分子標的治療と免疫治療でした。癌は日本人死亡原因の1位です。その中では肺癌が男性で1位、女性で2位の重大な疾患です。当院は健診事業に力を入れていますが、肺癌は検診でもっとも多く見つかる癌です。2017年に吉田病院に入院した癌の患者さんのうち、肺癌は45%と最も多くなっています。その意味から、肺癌の知識は当院にとって重要なテーマであると共に、旭川市民にとっても知っておくべき重要な領域といえます。

一般講演として兵庫県立がんセンター呼吸器科内科部長の里内美弥子先生に「肺がんの免疫治療」のご講演をいただきました。従来、進行期肺癌の治療成績は良くありませんでしたが、2015年に使用できるようになった免疫チェックポイント阻害剤（キートルーダなど）によって完治する症例がでてきています。現在は単独治療が行われていますが、他剤との併用によって驚くほど治療成績が向上することを示されました。

特別講演として近畿大学医学部呼吸器外科教授で日本肺癌学会理事長の光富徹哉先生に「肺がん分子標的治療の進歩」のご講演をいただきました。2002年、肺癌の遺伝子変異を調べて、変異に対応する分子標的薬によって、肺癌患者の生存期間を一挙に2倍に延長するブレイクスルーが起きました。主に使われているタルセバの他、多くの新薬が開発されています。現状では完治は難しいようですが、免疫チェックポイント阻害剤との併用などによって治療成績はずっと良くなることが期待されます。

今回のテーマは私の専門領域でないため、座長は大変でしたが、今後の展開が大いに期待されるお話しを聞くことが出来て大変良かったと思っています。



（慶友会吉田病院長 横田 欽一）

職員全員で地域に根ざす講演会を目指して

今回の講演会は、肺がんエキスパートに聞く「飛躍する肺がん治療、その先へ」をテーマに、日本肺がん学会理事長 光富徹也先生と、兵庫県立がんセンター呼吸器内科部長 里内美弥子先生のお二人に講演をして頂きました。

お盆と重なった事も有り、どれくらいの方々に来て頂けるか不安な部分も有りましたが、結果は、600名収容のクリスタルホール（旭川市音楽堂）が満席になり、大盛況で終了する事が出来ました。

アンケートに答えて頂いた方々からも、とても良い講演だったと言う声が多くあり、テーマが肺がんと言う事もあって、一般の方々には身近に考えられる、有意義な講演会だったように思います。年代別では、60歳以上の参加者が多く見られ、今後の参考にしたいと思う方、家族等と一緒に役立てようと思う方など、多岐にわたる考えの方々

が、今回の講演に参加して頂いたように思います。

講演会も16回目をむかえ、私たちにとっても、一般の方々との様々なふれあいを通して、地域に根ざす事が、少なからず出来てきている事を、感じる講演会でもありました。

毎回の講演会を、全て慶友会の職員だけで行うスタイルは、他では決してまねの出来ない事であり、慶友会の財産でもあると思います。この培われた慶友会mindは、これからも引き継がれ広がって行くものだと思います。

お忙しい中、講演して頂いた、光富 徹也先生と、里内 美弥子先生に、心から感謝致しますとともに、講演会を無事終了する事ができ、慶友会職員の皆様に、労いとお礼を申し上げます。

2018年9月

事務部長 富樫 次敬

在宅福祉センターは移転しました。

我が国では現在、諸外国に例を見ないスピードで高齢化が進んでおり、医療・介護のニーズの増大が見込まれています。その中で厚生労働省は「地域包括ケアシステム」すなわち高齢者が可能な限り住み慣れた環境で自分らしい生活を送るための医療・介護・生活支援などのサービスや住まいを一体的に提供する体制の構築を推進しています。

慶友会グループでは高齢化社会における在宅医療の重要性をいち早く認識し、通院が困難となった方々の体調管理や日常生活動作の維持・向上をサポートするため、在宅医療福祉センターを設立し訪問診療・訪問看護・訪問リハビリテーション・訪問歯科を提供してまいりました。

しかしながら、地域包括ケアシステム構想の中で吉田病院を含む200床以上の病院は在宅療養支援診療所等の後方支援が

主な役割と位置づけられているため、グループ内での機能分化が求められるようになり、訪問診療業務をkeiクリニックに移管することになりました。

keiクリニックはこれまでの予防医学センターの健診業務に加え、これからは慶友会グループの訪問診療部門を担うこととなります。

多くの方々のご尽力により8月からkeiクリニックでの在宅診療を開始することができました。未だ電子カルテや書類の整備・移動等で作業効率や低下し完全稼働とはいえない状況ではありますが、患者様の住み慣れた環境で健やかに暮らしたいという願いに在宅医療を通してお手伝いできるようスタッフ共々邁進していきたいと考えております。

在宅医療福祉センター

センター長 府川悦士



5S活動



優秀
部署

医療技術部

放射線課

6月に表彰された部署の担当者へインタビュー！！

Q. 5S活動を行うにあたって、放射線課で取り組んだことは何ですか？

A. 事前に5Sの指摘事項一覧があったので、その該当する箇所を一つずつ丁寧に直していった。

Q. 今回6月の5S優秀賞を取りましたが、これからの意気込みを教えてください。

A. 5S優秀賞をとったが、今回指摘されたところもあるので次回はそこを改善して行ける様に取り組んでいきたい。



大場 健士朗

澁谷 和孝

5Sとは??

躰・整理・整頓・清掃・清潔の頭文字の5つのSで、清掃・整頓する意識を常に持ち、仕事や職場環境を改善していく活動を意味します。

f 吉田病院公式 Facebook お知らせ

吉田病院公式 Facebook にて、毎週病院に関する情報や裏側など更新しております。皆様からの” いいね！”をお待ちしております。

